

# 晩秋の觀察

東京女高師  
附屬幼稚園

吉田ごみ子

## 一 からすうり

二三日前から庭のからすうりが美事な色になつて來た。私から教へなくても誰か見付けてくれればよいと思つてゐると、或日A子ちゃんやんが「先生いゝもの」と私の目の前へ紅い物をつき出した。それは私の願つてゐたからすうりだつた。よく見つけてくれたと思ふと嬉しくなつて、その邊の子供達を集めて庭の隅へ見に行く。都會の中に居ながら、この様な野趣あるものを扱ふ事の出來るのを嬉しく思ひ乍ら觀察させる。恐らく子供達には初での事だらう。柿だと言ふ子もゐるし、何だか解らず唯美しい光つた實にみとれてゐるやうな子もゐる。最幼年の子供等はミカンと心得てゐるのもゐる。からすうり、子供には耳馴れない言葉であるが、「鳥が紅いこの實を好きで食べるので、からすうりと言ふお名前がついたのですつて」と言ひ乍らその名前を教へると、子供乍らうなづく事と思ふ。細い弱々しい蔓に相當大きな實が下つてゐる事、獨りでは立つてゐられないが、他のしつかりした木に巻き付いてゐるから落ちない事等を話し合ひ乍らよく觀させ。莖や葉がすつかり枯れてゐるのに眞紅な實がぶら下つて

ゐる事は大人が見ても驚かされる事である。年長の子供ならば莖の節毎に出てゐる卷鬚を見させるのもよいと思ふ。又、青い實から橙色に、橙色から眞紅に變つて行く姿を見せ度い。青い葉みの中にポツと浮んだ様な眞紅や橙色の實は子供にも容易に見付けられるが、葉と同じ青い色の葉々目につかない。こんな時、その場所を教へずに、「もう無いかしら」と言ひ乍ら保母も一緒に探す様にする。一生懸命見つけ出すものだ。子供は自分で探し出すと一層喜びを感じるものである。青い實は他のと違つて縦に縞がある。西瓜みたいと氣の付く子供もゐるであらう。だん／＼橙色になつて行くと縞がなくなる事も、其の後毎日子供と覗きに行つて知らせ度いものである。尙、寫生や切紙にすれば一層效果的だと思ふ。實の中に種子のある事實は、わざ／＼子供の前で割つて見せなくとも偶然子供が踏みつぶしたり、カラスのつゝいたのが落ちてゐたりした時に、子供が発見する程度にとどめたい。ましてや、ひゞやしもやけの薬になる事や、根から澱粉を取る事などは國民學校の理科に譲るべき事と思ふ。

## 二 コスモス

この頃咲く花に美しく優しいコスモスがある。赤、白、桃色、ぼたん色等、色を知らせるにもよい。今まで秋の花は、七草の様に淋しい花が多かつたのに比べて、美しく明るい秋の花を感じさせ度い。コスモスが花壇等に咲き揃つてゐるのは美事なものである。この様な所へ連れて行つて見せる事

が出来れば、之に越した事は無いが、出来なければ切花としてども、保育室に挿し度。年少組なら、花びらの一つ／＼を教へたり中心に雄蕊のある事などは細かく話さず、「どのお花も、真中が皆な黄色なのね」と言ひ乍ら、赤い花も白い花も中心が黄色く丸くなつてゐるのを見させる。又「花びらの色が綺麗だね」と言ひ乍らこの花の持つしなやかな美しさを感じさせ、葉は糸の様に細くなつてゐる事を話して置きたいと思ふ。年長組なら寫生の材料に使つたりするので、この様な時に子供と一緒に花びらの數をかぞへたり、中心に黄色い雄蕊があるのを良く見させる。(雄蕊と言ふ名稱は教へる必要はない)中には手で觸つて黄色い粉の出るのを見付けて大發見でもした様に喜ぶ子供も出て來るであらう。散つた花びらを拾つてビロードの様な感覺を味はせるのも良いと思ふ。葉は糸の様に細かく、刻んだ様になつてゐるのを知らせ度いが、その邊にある蔦や普通の葉を拾つて來て子供に比べさせるのも面白い。又、寫生をすれば自然に氣の付く事であるが、青い蕾、紫がかつた蕾、大きいのに小さい蕾等この様な堅い堅い蕾の赤やんから、だん／＼大きくなつてこんな綺麗なお花が開く事を話し合ふ。尙、先日どなたかの思ひ付きでしたが、白いお皿に水を入れて、よく開いた花を(葉も)取つて浮かしたら、その美しさに眼を見張つた事であつた。開き切つた花を、子供と一緒にこの様にして眺めるのも一寸變つてゐて面白いと思ふ。

### 三 柿 と 栗

秋の代表的な果物は何と云つても柿と栗である。柿も栗も大抵の子供が食べて知つてゐるが、實際に木になつてゐる所を見た事のない子供は都會には澤山ゐる。昔なら遠足などで栗拾ひに行つたりしたが、今は其れも出来な。先日お繪畫をした時であつたが、「柿がなつてるの」と言ひ乍ら家の周圍に一つ／＼の柿を澤山書いて來た子供があつた。この子供など、お八つや食後に出る一つ／＼の柿は良く知つてゐても木になつてゐるのを實際に見た事がないのである。ましてや栗など、あの一つ／＼が木に下つてゐると思つてゐるであらうと思ふと、枝ごとのを是非見せ度いものと、早速用意したのだつた。

柿—近くに木があれば、青い實の中から時々行つては色づくの眺められれば一番良い。無い時は枝についてゐるのを何處からか見付けて來て花瓶にさして置く。子供達が柿があつた／＼と見付けた時、「この柿、甘いかしら」と話し出すと、この言葉から子供達それぞれで食べた柿等思ひ出して、甘いとか酸かつたとか色々の話が展開されてゆく。中に堅い種子がある事等も實際に切つて見せなくとも、柿を見ながら子供達の話合の中から知れば良いと思ふ。良い家庭の子供で皮も種子もとつて與へられてゐるので良く知らない場合があるのではないかと思ふ。尙、子供達が柿と間違へたから、うりとは比へて見るのも面白いと思ふ。

栗―「この中に栗が(實)三つ位仲長しに這入つてゐるのよ」と言ひ乍ら、イガの割れ目から抱き合つて中に這入つてゐるのを覗かせる。二つ這入つてゐるのも、一つしかないのもある。一つのは大きく太つてゐる事等話し合ひ乍ら出してみる。子供達は今更の様に「本當だ」と驚きの眼をみはるのである。栗を食べて虫のゐるのは子供達も知つてゐる事であるから「あの虫に食べられない様にこんな針の様なトゲのお家に這入つてゐるのよ」と話してやる。又イガが青いのからだん／＼茶色になり、中の栗が美味しくなると獨りでパツと割れて栗が落ちる事等も話して聞かせ度いと思ふ。

#### 四 木 の 葉

「お庭に色々の葉つばがありますね。どんな葉があるか見て来ませう」と子供達と園内を廻つて歩く。子供達の良く知らないもの、名前の難かしいのは避けて良く眼に觸れる様なのを一枚づつ取つてゆく。これらの木の葉は毎日の様に子供達のオママゴトのお皿に或はお魚に大抵使はれてゐるが、これも唯葉つばとして扱はれてゐるので、色々の葉がある事にうつかりして居る。これからイチフやモミヂ等の様に、黄葉、紅葉して来る物もあるし、青木や八つ手の様に常緑樹もあるので、紅葉の前に一度木の葉を集めてみるのも面白いと思ふ。八つ手等よく知つてゐる葉であるが、「八つ手の葉つば大きいのね。お手々を擴げた様な形」と言ひ乍ら手を擴げてみる。子供達も小さい手を葉つばに合せて、何倍かの大きな葉

を知る。厚い堅い葉である事も觸つて見て知らせ度い。八つ手は後でオママゴトの團扇にする約束をする。プラタナスもいつもお園子屋さんに、お皿に使はれてゐる。大きいが厚さが薄い。廣い葉つばだからお皿にしませうか等相談しながらみる。櫻、紫陽花の様に普通の形で周圍が鋸の刃の様にギザギザになつてゐるもの、椿、青木等の様に光つてゐて濃い緑で、堅い葉のもの、つつじや山吹の様に小さい葉で薄いもの、いてふの様に獨特の形をしてゐるもの。モミヂはお歌の通り、赤ちやんのお手の様な葉をみる。藤や栗等、長い葉つばが兩側にお行儀よく並んでゐるのねと言ふ程度に話し合ふ。芒の様に細くて長いもの、大きい葉に小さい葉、厚い葉に薄い葉、色の濃淡、形の色々、光澤のあるものなど様々である。モミヂや蔦等は寒くなると、こんなに青いのが眞紅になるし、いてふは綺麗な黄色に變るけれど、八つ手や青木等は一年中青々してゐる事等話しておく。ぐるつと一廻りして来て、一つ／＼の葉について覚えてゐなくとも、色々の葉があると言ふ事がよく解ればそれで良いと思ふ。木の葉は形を寫したり、寫生したりすると良いが、紅葉してからの葉は一層面白味があり、工夫してハリエにしたり細工等する事を思ふと今から楽しみである。